

— 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

中学二年生の「私」は、ある日学校から帰ると泣いている母の姿を目にする。母から、その母である「おばあちゃん」の余命が長いことを告げられた「私」は、次の日から「おばあちゃん」の病院に通うようになる。あるとき、「私」は「おばあちゃん」からある一冊の本をひとりで探してきて欲しいと、聞いたことのない著者名とタイトルが書かれたメモを渡される。

その日から私は病院に行く前に、書店めぐりをして歩いた。繁華街^{はんかがい}や、隣町や、電車を乗り継いで都心にまで出向いた。いろんな本屋があった。ザッゼン^aとした本屋、歴史小説の多い本屋、店員の親切な本屋、人のまったく入っていない本屋。しかしそのどこにも、おばあちゃんのさがす本はなかった。手ぶらで病院にいくと、おばあちゃんはきまって落胆^{らくたん}した顔をする。何か意地悪をしているような気持ちになってくる。

「あんたがその本を見つけてくれなけりや、死ぬに死ねないよ」

あるときおばあちゃんはそんなことを言った。

「死ぬなんて、そんなこと言わないでよ、縁起でもない」

言いながら、はつとした。私がおしこの本を見つけたさなければ、おばあちゃんは本当にもう少し生きるのではないか。ということは、見つからないほうがいいのではないか。

「もしあんたが見つけたすより先にあたしが死んだら、化けて出てやるからね」

私の考えを読んだように、おばあちゃんは真顔で言った。

「だって本当じゃないんだよ。新宿にまでいったんだよ。いったいいつの本なのよ」

① 本が見つかることと、このまま見つけれないことと、どっちがいいんだろう。

16 桐原の

そう思いながら私は口を尖らせた。

「最近の本屋つてのは本当に困ったもんだよね。少し古くなるといい本だろうがなんだろうがすぐひっこめちゃうんだから」

おばあちゃんがそこまで言いかけたとき、母親が病室に入ってきた。おばあちゃんは[A]をつぐむ。母はポインセチアの鉢を抱えていた。手にしていたそれを、テレビの上に飾り、おばあちゃんに笑いかける。母はあの日から泣いていない。

「もうすぐクリスマスだから、気分だけでもと思って」母はおばあちゃんをのぞきこんで言う。

「あんだ、知らないのかい、病人に鉢なんか持つてくるもんじゃないんだよ。鉢に[B]付くように、病人がベッドに寝付いちまう、だから縁起が悪いんだ。まったく、いい年してなんにも知らないんだから」

母はうつむいて、ちらりと私を見た。

「クリスマスっぽくていいじゃん。クリスマスが終わったら私が持つて帰るよ」

母をかばうように私は言った。おばあちゃんの乱暴なものの言いに私は慣れているのに、もっと長く娘をやっている母はなぜか慣れていないのだ。

② 案の定、その日の帰り、タクシーのなかで母は泣いた。またもや私は、ひ、と思う。

「あの人は昔からそうなのよ。私のやることなすことすべてにけちをつける。よかれと思ってやっていることがいつも気に入らないの。私、何をしたらあの人にお礼を言われたことなんかないの」

タクシーのなかで泣く母は、クラスメイトの女の子みたいだった。母の泣き声を聞いていると、心がスポンジ状になって濁った水を吸い上げていくような気分になる。

あああ、と私は思った。これからどうなるんだろう？ 本は見つかるのか？ おばあちゃんは死んじゃうのか？ おかあさんとおばあちゃんは仲良くなるのか？ なんにもわからなかった。だって私は十四歳だったのだ。

クリスマスを待たずして、おばあちゃん是个室に移された。点滴の数が増え、酸素マスクをはめられた。それでも私はまだ、おばあちゃんが死んでしまうなんて信じられないでいた。病室では笑っている母は、家に帰ると毎日のように泣いた。③ おばあちゃんが個室に移されたのは、私が鉢植えを持つていったからだと言って泣いた。

※ その年のクリスマスは冷え冷えとしていた。私が夏から楽しみにしていた母のローストチキンは黒こげで食べられたものではなかったし、ケーキに至っては砂糖の量を間違えたのかまったく甘くなかった。クリスマスプレゼントのことはみんな忘れているようで、私は何ももらえなかった。

そうして例の本も、私は見つけれずにいた。

クリスマスプレゼントにできたらいいと思って、私はさらに遠出をして本屋めぐりをしていたのだが、そのなかの一軒で、年寄った店主が、たぶん絶版になっていると教えてくれた。昭和のはじめに活躍した画家の書いた、エッセイだということも教えてくれた。

黒こげチキンの次の日、冬休みに入っていた私は朝早くから病院にいった。見つけれなかった本のかわりに、黒いくまのぬいぐるみを持つていった。

「おばあちゃん、ごめん、今古本屋さがしてる。かわりに、これ」

おばあちゃんはずいぶん痩せてしまった腕でプレゼントのボウソウをと、酸素マスクを片手でハズしてずけずけと言う。

「まったくあんたは子どもだね。ぬいぐるみなんかもらったってしょうがないよ」

これにはさすがにかちんときて、個室なのをいいことに、私は怒鳴り散らした。

「おばあちゃん、わがまますぎるっ。ありがとくらい言えないのっ。私だって毎日毎日日本屋歩いてるんだから。古

本屋だって、入りづらいのにがんばって入ってるんだから。古本屋に私みたいな若い子なんかないのに、それでも入ってって、愛想の悪いおやじにメモ見せて、がんばってさがしてるんだから。それに、おかあさんにポインセチアのお礼だって言いなよ」

おばあちゃんは目玉をぱちくりさせて私を見ていたが、突然笑い出した。私の覚えているよりは数倍弱々しい笑いではあったけれど、それでもすくおかしそうに笑った。

「あんたも言うときは言うんだねえ。なんだかみんな、やけにやさしいんだもん、調子くるってたの。美穂子なんかあたしが何か言うときと目くじらたてて言い返してきたくせに、やけに素直になっちゃって」

美穂子というのは私の母である。はずした酸素マスクをあごにあてて、おばあちゃんは窓の外を見て、ちいさな声で言った。

「あたし、もうそろそろいくんだよ。それはそれでいいんだ。これだけ生きられればもう充分。けど氣にくわないのは、みんな、美穂子も菜穂子も沙知穂も、人がかわったようにあたしにやさしくするってこと。ねえ、いがみあつてたら最後の日まで人はいがみあつてたほうがいいんだ、許せないところがあつたら最後まで許すべきじゃないんだ、だってそれがその人とその人の関係だろう。相手が死のうが何しようが、むかつくことはむかつくって言ったほうがいいんだ」

おばあちゃんはそう言って、酸素マスクを口にあてた。くまのぬいぐるみを、自分の隣に寝かせて、目を閉じた。くまと並んで眠るおばあちゃんは、おさない子どもみたいに見えた。

(角田光代『さがしもの』による。)

問一 ― 線部①とあるが、「私」がこのように迷っているのはなぜだろうか。「私」の思いをわかりやすく説明しなさい。

問二 本文中の[A・B]を補うのにふさわしい漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問三 ― 線部②「案の定」のことばの意味を答えなさい。

問四 ― 線部③の「母」の様子を、「私」はどのように感じているだろうか。最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「おばあちゃん」に死なれたくないという気持ちはわかるものの、おろおろするばかりで、ありそうもないことで自分を責めることしかできない「母」に頼りなさを感じている。

イ 「おばあちゃん」の言い方は確かに厳しく、気持ちの良いものではないものの、それにいちいち傷ついて「私」に助けを求める「母」の気の弱さに腹立たしさを感じている。

ウ 「おばあちゃん」に鉢のことを言われたときにはその話を受け流していたものの、それが現実となってしまう今では事実を受け止め、反省しようとする「母」の責任感の強さを感じている。

エ 「おばあちゃん」とは昔から仲が悪く、言い争いばかりしていたものの、先が長くないことがわかってからはなるべく我慢するようにしている「母」のやさしさを感じている。

問五 次の一文はもと本文中にあったものである。元にもどすのに最もふさわしい箇所を本文中の「※」より後の部分からさがし、その直前の10字をぬき出さない。

それで、それまで入ったこともなかった古本屋にも、足を踏み入れていたというのに。

問六 —— 線部④とあるが、「おばあちゃん」が「すぐおかしそうに笑った」のはなぜだろうか。最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 中学生の「私」が大人のような口を利きながら怒っていることに、無理をしている様子が見て取れたから。
イ「私」が自分の言うことには何でも従う子どもだと思っていたので、言い返してきたことが意外だったから。
ウ 家族の自分への接し方の変化に困惑していたが、自分は自分のままでいいのだと気持ち、ほっとしたから。
エ 自分に遠慮のある家族の中で、はつきりと思いをぶつけてくる「私」の率直さがかえって嬉しかったから。

問七 —— 線部⑤について。ぬいぐるみなんかいらないうっていった「おばあちゃん」が、ここでそれを自分の隣に寝かせたのはなぜだろうか。くわしく説明しなさい。

問八 —— 線部 a～c を、それぞれ漢字に直して書きなさい。

二 次の文章は、植物に関わる活動を積極的に続けている西島清順さんが書いたものである。これを読んで、後の問に答えなさい。

I

皆さんは、『課外授業 ようこそ先輩』というNHKの番組をご存じでしょうか。さまざまなジャンルで活動する人が、自分の母校の小学校のクラスの生徒を対象に、二日間にわたって授業を行うという内容です。

まだまだ残暑が残る九月の暑い日でした。先生役として出演依頼があった僕の農場に、生徒たちは元気にやってきました。授業で実際にやってみようと思ったのは、畑に地植えされた「お化け鶏頭」というインドの花を掘り起こして植木鉢に移植するという、いわば植物の手術みたいなミッションです。お化け鶏頭は生徒たちの背丈ほどもある、大きな花です。

草花を移植するには、テクニクが必要です。それも時期や品種によってさまざまです。

初日、僕はわざと何もやり方を教えずに、自分たちで考えて実践してもらいました。みんな力を合わせて、用意された道具や園芸資材を使って一生懸命に植え替えをしてくれました。

そして二日目、彼らは□□場々と農場へやってくるのですが、そこで待っていたのは、元気がなくなったり枯れそうになっているお化け鶏頭たち。

希望に満ちた子どもたちの表情に、一瞬にして落胆の色が浮かびます。

普通、園芸の先生や講師なら誰しも、「どうやったら植物をうまく育てられるか」ということをさまざまな方法で教えます。ですが僕は逆に、まず、「自分が大事に思っている植物を、枯らしてしまったときのショック」を伝えたかったのです。

その後、僕は植物の生きるメカニズムを説明して、正しい「手術」の方法を教えました。子どもたちの飲み込みはすばらしいものでした。二日目の手術はみな、大成功に終わったのです。

誰かに何かを教えたいときには、初めから丁寧に教えるのが効率がよいとは限りません。失敗は成功のもとといいますが、失敗してもいいからやってみよう」という失敗と、絶対成功させてやる！」という気持ちのもとの失敗は、まったく別物なのだと思います。後者の失敗では大きなショックを味わいますが、そこから学ぶことは非常に大きいのです。

あの授業は、そういうことを如実に物語っているのかもしれない。

II

アルゼンチンとボリビアの国境あたりにある森で一週間ほど仕事をしているとき、ペドロさんに、ピューマに氣をつけたほうがいいよ、とアドバイスを受けました。最近そのあたりで家畜が食い殺されているそうです。

僕が辿り着いたパラボラツチョ（酔っぱらいの木）が自生している森は、宿からどこまでもつづく農場の間を抜け二時間ほど走ったところにありました。

アルゼンチンの広大な国土には、コットン、サトウキビ、ソルゴとよばれるコクモツ、トウモロコシ、豆などのプランテーションが広がっていて、その間を4WDで走っていると、「のどかで美しい景色やなあ」とうっかり思いそうになります。この農場を作るために、想像を絶する量の美しい植物が切り倒されているという現実を棚にあげて……。

隣町では、一〇〇〇ヘクタールの森が切り開かれて農場になり、そのおかげで野生のピューマも住むところがなくなったそうです。だからペドロさんの森や農場のほうへやってきていたのです。また、アルゼンチンではあまりにも

大きな土地を切り開いて農場を作るせいで、雨が降らなくなったということも知りました。

いっぽうの僕は、たった四本の木を採取しにそこまでやってきて、地元の人を雇い、協力してできるだけ木を傷めないよう精魂込めて必死に日本に運びました。

これらは非常にタイショウ的ですが、かといって、たった数本の木を大事に運ぶ自分と、何万本という木を切り倒して農場を作るアルゼンチンの農家を對比して、農家を悪者扱いしたいわけではありません。もしかしたら、そこで育った野菜が知らず知らずのうちに僕の口に入っている、つまり自分が恩恵を受けている可能性だってあるからです。木を切ったり掘ったりして運ぶ僕の仕事よりも、建築家が建物をひとつ建てたり、行政が新しい道を切り開いたり、デイベロッパーが山を開発するほうがよっぽど植物を殺しているし、かわいそうだ、というつもりありません。だって、建物にも道路にも―― A 一からです。

結局、誰もが動物や植物の命の犠牲の上で生きているのであり、それがまぎれもない人間の営みなのです。動物にせよ、植物にせよ、どの命を奪うとかわいそうで、どれがかわいそうではないという話は本当に難しい、と、ペドロさんが僕をもてなすために朝いちばんに捌いて焼いてくれた豚の肉を食べながら、考えていました。

III

「そら植物園」の事務所には、講演会やトークイベント、テレビやラジオ出演の依頼が多数寄せられます。お話をさせていただく機会に恵まれたときは、これだけはいわないでおこうと誓っていることがあります。それは、「自然や環境のことを思いやりましょう」という類の話です。

植物を扱う仕事をしている以上、「自然」や「環境」などというキーワードは避けて通れないものです。

自分がたくさん植物を育てているのをいいことに、環境破壊を行ってきた人類を悪者にして「自然や環境を思いや

りましょう”と自分を良く見せるのは簡単ですが、^④そもそも人類の歴史というのは、自然を破壊しつづけてきた歴史そのもの。自分の生活のすべてが、今までの人類の歩みの上に成り立っているのです。ですから人類が今まで行ってきた環境破壊に対して、自分は無関係であるという資格は誰にもないと、僕自身も思っています。

ただし他の生物に比べて発達した脳を持つ人間が“自然や環境を思いやりましょう”という言葉を口にしたときに得られる、あのなんともいいがたい正義感が、^⑤時に人々を勘違い^{かんちが}させてしまうのではないかと心配してしまうことがあるのです。

“環境を守らなければ”という正義感や、“このままでは地球が危ない”という危機感を煽^ほるだけで、本当に世界は変わるのでしょうか。

たとえば、目の前に困っている人がいたとします。そのとき、“この人を助けなければ”という正義感で助けるのと、家族や恋人が困っていて、“愛する人を助けたい”という気持ちで助けるのでは、圧倒的に後者のほうが大きな力が動くはず。

そう、愛の力は正義感を超えるのです。だから僕は、環境や自然のことを守りたいのであれば、その必要性を述べることも、まずは好きになってもらうことがいちばん大切なのではないかと考えたのです。

^⑥フクザツなデータを片手に環境破壊への警告を訴^うえる人は世の中にたくさんいますが、植物や自然が大好きな自分がすべきことは、植物に対する愛情の量を増やすことだろうと思いました。そしてそのための手段として最もユウコウなのは、植物を使^{つか}ったいろいろなプロジェクトに取り組み、次々と成功させ、いろいろな角度から一人でも多くの人に【 B 】【を伝えることだと思っています。

それが遠回りのようで近道であり、よっぽどリアルだと考えるからです。

IV

植物が、花に香^{かほ}りを持たせたり蜜^{みつ}を出したりする理由は、虫などをおびき寄せれば受粉しやすいと知っているからです。植物が果実を甘くする理由は、食べたらいまいと鳥に知ってもらえたら、食べてもらって糞^{ふん}としてバラまいてもらい、自分の種（子孫）を、より遠くに運んでもらえるからです。

植物は自分の周りにいるものをいかにうまく利用するかを、考えて生きています。

でもここで大事なのは、植物は決して自分だけが得をしようとしているわけではなく、鳥や動物、虫たちに食料を提供したり、住^{すみ}処^かを提供してあげたりして、【 C 】【の関係を本能レベルで作^{つく}り出しているということ。人間や動物は、常に【 D 】【を無意識に考えて行動しているものです。しかし植物は、他者にメリットを与えることが自分のためにもなると知っています。そうすることでお互いに良い関係を末永くつづけることができるのを、身をもって証明してくれているのです。

植物は地球上で、動物や人間より遥^{はる}かに長い時間を生きながらえてきました。そのジツセキ^{じつせき}から来る説得力に勝るものはありません。

（西島清順『教えてくれたのは、植物でした』による。）

問一 線部 a ~ e を、それぞれ漢字に直して書きなさい。

問二 線部 ① のようにしたのは何のためだろうか。それを表している一文を、I の文中からさがし、その最初の五字をぬき出して答えなさい。

問三 — 線部②について。ここにふさわしい四字熟語になるように、空欄部分を漢字で答えなさい。

問四 — 線部③について。なぜ「うっかり」という表現が使われているのだろうか。わかりやすく説明しなさい。

問五 本文中の「 A 」を補うのに最もふさわしいことばを、Ⅱの文中から10字前後でさがし、ぬき出して答えなさい。

問六 — 線部④とほぼ同じ内容を表現している一文を、Ⅱの文中からさがし、その最初の五字をぬき出して答えなさい。

問七 — 線部⑤は、どのような「勘違い」をするというのか。次の中で最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の生活は、人類の歩みなどとは関係がない。
- イ 自然を破壊してきたことを自分は反省している。
- ウ 他の生物に比べると、自分の脳は発達している。
- エ 世界に対して自分はとても良いことをしている。

問八 本文中の「 B 」を補うのに最もふさわしいことばを、次の中から選んで記号で答えなさい。

- ア 愛情の尊さ
- イ 成功する喜び
- ウ 環境の重要性
- エ 植物の魅力

問九 本文中の「 C 」を補うのに最もふさわしいことばを、次の中から選んで記号で答えなさい。

- ア 行ったり来たり
- イ 持ちつ持たれつ
- ウ 急がば回れ
- エ どっこいどっこい

問十 本文中の「 D 」を補うのにふさわしいことばを、10字以内で考えて答えなさい。

問十一 Iの文中の「線部」では二種類の「失敗」が話題になっている。君自身は今、どちらの「失敗」が大切だと考えているだろうか。君自身の経験を例にしながら、できるだけくわしく述べなさい。なお、どちらの立場で書いても、そのことで採点が左右されることはありません。

中学 国語

解答 用紙

受験番号

氏 名

一 問 一

--

問 二

A

B

問 三

--

問 四

--

問 五

--

。

問 六

--

問 七

--

問 八

a
b
c
して

二 問 一

a
b
c
d
e

問 二

--

問 三

--

揚々

問 四

--

問 五

--

問 六

--

問 七

--

問 八

--

問 九

--

問 十

--

問 十一

--